

2007年度

## 個の力創造室 基本方針

室長 岩田 政広

人権尊重や経済発展という戦後を代表する概念は本来の意義からかけ離れ、利己主義、拝金主義といった社会風潮を創出してしまいました。経済大国へと歩む過程で日本古来の精神文化は衰退を辿り、世のため人のためにとという利他の心、社会の一員としての気概を失いつつあります。私たちは健全な「個」の力を高め、公共性の形成に自発的に寄与し、明るい豊かな社会を目指し市民意識を変革して行かなければなりません。

当室を構成する二委員会はリーダーとしての資質を身に着け、英知を養い市民意識を変革する事業を展開します。市民意識変革運動の第一歩は会員拡大と考え2008年度以降の入会者をも視野に入れ一年を通して会員拡大のPRを続けます。入会希望者説明会の開催、ホームページの活用、各種媒体による一般公募などを積極的に行い、会員拡大を図ります。新メンバーに対してはJCの事業を通じて社会に対し目を開くよう促し、研修、委員会体験、各種大会への参加、公開委員会、新潟まつり手づくり子どもみこし、12月例会・卒業式の企画・運営など様々な事業を体験することで資質向上を図り、社会を変革するリーダーとなるべく育成していきます。また現代の社会風潮を創出した要因である戦後の基本概念の是非の考察、グローバルスタンダードと総称されるルールや思想の側面を検証し、風潮に流されず自分で考える力、健全で懐疑的なリテラシー能力を身に付ける公開事業を実施します。そして衰退した精神文化を復興するため日本人が大切にしてきた文化や思想、日本の精神を学び、精神修養を体感します。

これらの事業は風潮に流されることなく思いやりや信頼から成る道徳的・倫理的社会を醸成し、損得、数値に傾倒した物質的に豊かな社会から心の豊かな社会へと変化を進めることで愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に寄与します。

# 2007年度

## オリエンテーション委員会 事業計画

委員長 佐藤 実

現代社会は経済的・物質的な豊かさから、心の豊かさが求められています。我々はその必要性に気づいているが目先の利益にとらわれ目を背けているのではないのでしょうか。このような状況を打破すべく我々は公の気概を持ち社会を変革するリーダーとして、市民意識の変革を目指し活動を行います。そのためには「個の力」を向上させることが重要であり、市民意識変革を効果的に行うために会員拡大は必要なファクターとなります。

オリエンテーション委員会では、会員拡大 会員募集にあたりメンバー、シニアメンバーからの情報収集（アンケートなど）、入会候補者の公開例会への参加促進、会員拡大ツールを活用した新入会員候補者説明会の開催、ホームページの活用、各種媒体による一般公募など積極的に行い会員拡大を図ります。また、過去データの洗い出しを行い未入会者に対する調査を実施しJC入会に対する抵抗感・問題点などを明らかにし、再度の勧誘とともに、FAQ作成や勧誘方法の見直し材料とします。会員募集については短期的な活動で終わらせず、本年度の募集期間終了後も継続的な募集活動を行い、翌年以降の会員拡大へと繋げていきます。そして、新しく入会するメンバーに対しては、VMV研修、委員会体験などの研修、各種大会への参加によりJCの理解と存在意義の認識を図り、公開委員会など他事業への参加、新潟まつり手づくり子どもみこしの企画・運営など様々な事業を体験することにより自己の力を高め使命感、道徳心、英知を養い、公の気概、貢献する心を身に着け、新潟そして日本の未来を担っていく人材育成を行います。

オリエンテーション委員会は、新入会員がJCへの入会と活動により自らが市民意識変革の第一歩を踏み出せるよう事業を展開します。そして社会に対する意識を常に持ち、社会を変革するリーダーとして、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に寄与します。

### 〔事業計画〕

1. 新入会員の募集
2. 新入会員に対する研修
3. 新潟まつり手づくり子どもみこしの企画・運営
4. 12月例会・卒業式の企画・運営

2007年度

## 研修委員会 事業計画

委員長 大澤博之

個人の人権や自由ばかりが主張され、社会に対し無関心・無責任な状況が蔓延しています。このように公共心が失われている現状は、欧米流の思想概念を無批判で受け入れ、日本の伝統的な精神文化や道徳心が衰退した事が要因のひとつではないでしょうか。個々の公共性を高める為には市民の意識変革が必要です。我々JAYCEEはそのリーダー的役割を果たす為に、英知を養い使命感を胸に活動していく必要があるのです。

研修委員会では英知を養い個の力を高める為に様々な分野の研修を行います。例会では市民意識変革と公共性の形成を促す事業をします。失われている道徳心や規律を身に付け「公の気概」を持ち行動していく為に、日本人が大切にしてきた文化や思想、歴史、日本の伝統精神を学びます。また、風潮に左右されない健全で懐疑的なリテラシーを身に付ける為に、戦後の基本的概念である民主主義や基本的人権の是非についても考察します。市民の意識変革を効果的に行うこと、市民にとって学び舎となるように市民公開例会とします。そして意識変革、学びや気付きについて検証も行います。公開委員会では英知と精神的な豊かさを身に付ける研修を行います。物事の本質を見極める力を養う為に、グローバルスタンダードと総称されているルールや思想の側面について検証を行います。また、冷静な判断力を身に付け、自らを律し見つめ直す精神修養を行います。さらに、生きる喜びに気付き、自らの考え確立する為に、愛・信頼・平和について学びます。

これらの研修で学んだ様々な英知、道徳心や精神的な豊かさ、公共心を基に自ら考え率先して行動することにより、市民の意識変革を効果的に高められます。公共性を形成する礎となる事で、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に寄与します。

### 〔事業計画〕

1. 公開委員会の開催
2. 2月例会の企画・運営
3. 5月例会の企画・運営

2007年度

## 公共性形成室 基本方針

室長 大橋 崇

2007年4月に新潟市は政令指定都市へと移行します。それにより新潟はさらに発展する機会を得ると同時に周辺の市町村や国に対して今まで以上に責任ある立場になります。我々が他の地域へ貢献することができる価値ある存在になるためには公共性を持った人とまちの創造が必要であり、その実現へ向けわれわれ新潟JCが率先し、市民と協働して活動を行い、関心を高めて行かなくてはなりません。

公共性形成室では新潟が今後ますます発展していくなかで、新潟の多様な可能性をひきだすためにSCLOM5と連携し、1年を通じてツアーを企画し、合併地域の人々が育んできた人や歴史、文化、産業等に触れ互いに理解し誇りを共有してもらいます。新潟は地震や水害など災害がたいへん多い地域です。災害が多い地域の県都LOMとして災害に対してどのように備え、どのように対応すればよいのか災害マニュアルを作成し喚起します。また新潟はその災害と隣り合わせにある豊かな自然によって農業は発展しました。地域の特色である農業について研究提案し、他の地域へ貢献できる「価値ある新潟」を見出します。また無選挙時におけるローカルマニフェストの普及・推進を行います。市民との協働運動としては本年で3回目を迎えるサンドクラフト事業を開催します。また本年秋に予定されている文化イベント「エンジン01」へ参画します。他都市、他地域との協働運動としては2008年に横浜と共同開催を目指す「サミット」の誘致活動を行います。そして新潟JCの各事業、活動内容を各種媒体を通じて市民に広報いたします。

これらの活動を通して、新潟の多様な可能性を引き出すと共に、自分のことだけでなく自分以外に貢献を考える利他の心を育み、公共性を持ったまちづくりを目指し、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に寄与いたします。

# 2007年度

## 市民協働委員会 事業計画

委員長 荒川 誠司

2007年4月1日、新潟市は政令指定都市になる予定です。これを機に新潟市が発展することを期待している市民は多いはずですが、日本の中での新潟市の果たす役割、責任は大きくなります。新潟市が国や県、また他地域に対して貢献の出来る都市になるためには、「公共性を持った人とまち」の創造が不可欠です。そのための活動を新潟JCが率先し、市民と協働して活動できる環境を作る必要があるのではないのでしょうか。

当委員会では、3回目を迎えるサンドクラフト事業を8月例会として開催し、より大きな市民参加イベントとなるよう広く参加を呼びかけます。市民と共に作り上げるこのイベントを通し、新潟の持つ自然の素晴らしさを感じ、誇りに思うことにつなげます。また、当委員会は2008年に横浜市との共同開催を目指す「サミット」誘致活動の新潟JCでの窓口となります。共催のパートナー横浜市に対しては、横浜JCと連携して横浜開港祭に参加します。横浜市民との交流をはかり、パートナーとしての新潟市をPRします。それに加えて、政令指定都市移行を記念して2007年秋に開催が予定されている文化イベント「エンジン01」に企画段階より参画いたします。これら「サミット」や「エンジン01」に関わる活動で、参加者や市民はもとより自治体や外部団体に対して新潟JCの存在を強く印象付けます。そして、新潟JC全体として一年間に行われる各事業、JC活動の内容や意義を新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等さまざまなローカル媒体を利用して市民に広報いたします。JC活動への理解をもとめ、各事業への積極的な参加を呼びかけます。

以上のような活動をすることにより、市民一人ひとりのまちづくりに対する関心を高め、「公共性を持った人とまちの創造」が可能になります。そのような「公共性を持った」市民と我々JCが手を取り合い、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造を目指します。

### 〔事業計画〕

1. LOM外に対する戦略的広報活動
2. サミット誘致活動と横浜JCとの連携窓口
3. 新潟におけるコンベンションの企画・運営参画
4. 8月例会（サンドクラフト）の企画・運営

2007年度

## 貢献力育成委員会 事業計画

委員長 石田直樹

本州・日本海側初の政令指定都市となる新潟市は、様々な発展する機会を得たといえますが、同時に政令指定都市にふさわしい責任ある都市となり、新潟市が他地域にも貢献することができる価値ある存在になる必要があります。JCが明るい豊かな社会の実現を目指し、市民意識を変革してゆく運動体であると考えたとき、我々JAYCEEは、その責任を果たすために率先して貢献できるようにならねばなりません。

当委員会では、災害が多い新潟県の県都LOMとして、新潟市内はもとより新潟県内及びその他の地域の災害に際して迅速且つ有効な災害対応活動をするための行動指針を作成し、県内各LOMや行政他の団体と連携をもった効果的な活動を実現するためのメンバーの意識の喚起および対応組織の作成をします。さらに、「価値ある新潟」を目指すために、食や農業、災害の経験など新潟のもつ様々な特色を活かして、国や他地域へ貢献する方策の研究と提言を行います。一方、他地域に貢献できる新潟市を実現していくためには、自分たちの地域や日本という国家の諸問題を自分たちの問題であると捉える公の心を持つ成熟した市民の存在が必要です。公共性を持った人とまちをつくるために、新しいmanifestoの検証や議会のあり方の研究を行い、まず、われわれJAYCEEがmanifestoの目指す新潟市の姿を理解することを目指します。さらに、政令指定都市となったまちの一体感の醸成につながるよう新しい新潟まつりを楽しく安全に運営するために行列指導の企画・運営を通して協力します。

これらの活動を通して、まちづくりは行政だけの仕事ではなく、自分たちのやることであり、自分たちが変わればまちが変わると思い行動できる公共心あふれる人びとを増やし、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」を創造していきます。

### 〔事業計画〕

1. 他地域への貢献に関する研究と提言
2. 新潟JC版災害対応マニュアルの策定
3. ローカルmanifestoの普及・推進
4. 新潟まつり行列指導の企画・運営
5. 10月例会の企画・運営

2007年度

## 新潟発見委員会 事業計画

委員長 佐藤直城

新潟市は2005年に14市町村が合併をして、人口80万人を超える大都市となりました。しかし、行政区としてひとつの「市」になったものの、市民が新しい新潟市全体を「自分のまち」と感じているとは思えません。今後、新潟市の多様な可能性を見出し発展していく為にも、新潟市民がお互いの地域を共に理解し誇りに思う事が必要であり、それが新しい新潟市において我々新潟JCの目指す価値あるまちづくりの第一歩なのです。

当委員会ではSCLOM5と連携し、旧新潟市を含めた旧14市町村の数値のみでは表せない個性をそれぞれの地域の人々が互いに理解し、共に誇りに思い、新潟市が市民意識の中でひとつの郷土となるきっかけを作る事を目的として、1年間を通して旧14市町村を巡るツアーを開催し、その地域で長い年月を経て育まれてきた歴史や文化、産業などにふれ、時にはそこに住む市民と交流します。それにより、訪れた人達がその地域の個性をより深く理解し誇りに思い、自分自身の愛すべき郷土の個性となるきっかけを作ります。同じ新潟市民として行政区という形だけではなく、そこに住む市民一人ひとりが新潟市全体を「自分のまち」と感じる事が、今後の新潟市の多様な可能性を見出し、政令指定都市となる事を機に新潟県下はもとより日本、延いては世界に対して価値のあるまちづくりに発展していくのだと確信しております。また、6月例会では新潟JCメンバーをはじめとするSCLOM5のメンバーと一般市民に、旧14市町村を巡るツアーの意義と目的を明確に示し、新潟に誇りを持つきっかけとなる内容で企画・運営いたします。

以上の事業を行い、新潟市全体を市民が「自分のまち」として愛着を持ち、今後の多様な可能性を見出し発展するきっかけを作り、真に明るい豊かなまちとして愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」となる事を目指します。

〔事業計画〕

1. 新潟発見ツアーの企画・運営
2. SCLOM5への参画
3. 6月例会の企画・運営

2007年度

## 未来調和室 基本方針

室長 櫛谷 努

今、私たちの未来は明るいものといえるでしょうか。環境においては、地球温暖化、大気汚染、水質汚染、森林破壊など地球規模での深刻な問題を抱えています。また教育については、児童虐待、いじめ、学力の低下、マナーやモラルの低下など目を覆うばかりです。今こそ我々J Cが、遠く離れた地域やこれから生まれてくる未来の世代のことを思う「想像力」を養い、明るい未来を実現するために行動を起こさねばなりません。

環境の大切さを理解するためにはまず我々の意識が変わらなければなりません。まず市民の皆さんと共に今地球がおかれている環境の姿について正しく理解し、このままではいけないと危機感を感じる必要があります。その上で身近な自然の中で環境の大切さを感じることが出来る場を提供することで、環境を守る意識を体で感じてもらい理解を深めてもらいます。このように地域における身近な視点と地球規模の視点、それぞれが密接につながっていることを理解し持続可能な社会を実現できる基盤作りをしていきます。次に、教育問題については今教育そのものが多くの課題を抱えており早急に解決していかなければならないと認識する必要があります。世界の中の日本という視点で、子供の人権、教育方針の変遷、ゆとり教育の功罪等を多角的に調査・研究することで教育のあるべき姿を浮き彫りにします。また、かつて日本人が持っていた誇りを取り戻すために、歪められていない日本の近現代史を、視覚に訴えかける教材を用いて効果的に多くの子供たちに伝えていきます。

そして、これら様々な問題に対して我々J Cが未来の世代のために活動することで、持続可能な自然環境の実現、正しい歴史認識を背景にした「清く・正しく・美しい」教育の実現に結びつけ、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造を目指していきます。



2007年度

## 環境意識育成委員会 事業計画

委員長 堀口太志

いま、私たちの地球環境は明るい未来に向かっているのでしょうか。増え続けるCO<sub>2</sub>、大気汚染、水質汚染、資源の枯渇等、様々な環境問題があります。このままでは持続不可能な社会になると漠然と感じながらも、それを他人ごとと感じている意識から行動に結びつかず、まだまだ環境破壊問題は収まるところを知りません。今こそ我々JCが市民の意識を環境問題への取り組みに向かせるよう行動しなくてはなりません。

当委員会では、「想像力」をキーワードに環境をマクロとミクロの両方の視野で捉えられるような活動を行ない、自然や環境に対する市民意識の変革を促します。4月公開例会では、マクロの視点で現在の地球環境が置かれている状況に対して危機感を持った上で、自らの行動が目に見えない地域や世代に影響を及ぼすことを理解してもらい、市民の環境意識の向上に努めます。その上で、身近な環境の中で持続可能な社会を創るために実践的に取り組める公開委員会を実施します。特に都市と農村が近接する新潟ならではの地域環境を活用して、身近な自然にふれることで現状を知り、その美しさを守らなければならないという意識をもってもらいます。また家庭においても、環境保護や道徳について話し合えるような教育プログラム「学の夏休み」を地域の子供を対象に実施します。自然環境保護の大切さを軸に、命の大切さや物を大事にする心なども伝えていきます。そして、内容については十分に理解されていないビオトープについて諸外国との比較から日本のビオトープの実体、可能性について調査・研究します。

いつまでも、この美しい自然環境が未来の世代の人々に受け継がれるように、我々新潟JCが率先して公共心を持ち、後世への愛をもって環境意識の啓蒙活動を推し進めることで、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に寄与します。

### <事業計画>

1. ビオトープの研究
2. 公開委員会の企画・運営
3. 日本JC協働運動 環境教育プログラムの実施
4. 4月例会の企画・運営

2007年度

## 教育問題委員会 事業計画

委員長 柳本和貴

教育とは、良くも悪くもすぐには成果が得られません。現在のわが国の姿は過去の教育の成果であり、今日の教育は将来のわが国の姿に表れます。教育の見直しが論議されている今こそ、私たちJ Cが教育について考え、国が間違った方向に進むことのないように検証するとともに、過去の歴史認識からくる自虐史観から脱却し、私たち日本人が自信と誇りをもてる国になれるように行動していかなければなりません。

当委員会では「ゆとり教育」を検証し、それが本来どのような教育を目指していたのかと、なぜうまくいかなかったのかを、欧米で行われてきた教育改革と比較しながら研究します。そして基本にさかのぼった改革を推進するため内閣に設けられた教育再生会議の意見も検証した上で、現在日本の教育の中心となっている子供中心主義教育や唯物史観・自虐史観を根本的に改め、将来日本を担う子供たちに対して、きちんと進むべき方向を示して正しい道に導くことが必要であることを認識していきます。当委員会が担当する9月例会では、これらの問題をふまえ、今の日本に必要な教育のあり方と、子供たちに示すべき正しい道とは何かを考えます。また、今の歴史教育において、日本の近現代史がほとんど教えられていないことを重大な問題と考えます。アジアの中の日本として、自国の近現代史を史実として学ぶことはとても重要なことと考えます。そこで昨年日本J Cが作成したプログラムを利用し、まず私たちJ Cメンバーに対して、そして中学生に対しても同じプログラムを行い、日本の近現代史をきちんと理解していただく活動をします。

私たちメンバー一人ひとりが、現在の教育に対して疑問をもち、また正しい歴史認識をもつことにより、本来の教育のあるべき姿を認識することが、子供たちを正しい方向に導き、それが将来、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造につながるものと確信します。

### 〔事業計画〕

1. 教育問題の研究と提言
2. 日本J C協働運動 近現代史プログラム「誇り」の実施
3. 9月例会の企画・運営

2007年度

## 情報戦略室 基本方針

室長 小木 将綱

我国の世論はマスメディアによって歪められた情報により形成されています。この真の民主主義とは言い難い状況において、我々新潟JCメンバーは情報を見極める力を養い、誤解を恐れず信念に基づいた情報を発信していかなければいけません。そしてその情報を次代に残すことも不可欠です。また、情報を正しく認識しなければならないことは国際問題においても同様であり、その上で「世界との友情」の実践に務めることが必要です。

国際問題においては、北朝鮮による拉致問題や近隣諸国との領土問題、各国の利害関係の対立と協調等昨今の緊迫したアジア情勢について学ぶとともに、「民間外交」によって新しい国際関係の構築に向けて取り組む為に、汝矣島JC、板橋JCとの姉妹交流を通して「世界との友情」という永続的な価値観を培い、更なる友情と信頼関係を育みます。次に情報について、歪められた情報の現状を知ると同時にその見極め方について学び、我々の運動が市民に対し賛同を得られる様努力しながらも、誤解されることを恐れずに信念に基づいた情報発信を行います。そして、より一層の情報共有に努め、ホームページを始めとする今までの広報活動を見直すとともに、JCCSなど新たな素材を活用しながら、新潟JCの活動を情報という側面から支援します。また、これら新潟JCの活動が次代へも明確に伝わる様に、これまでの情報を有効活用できる形でアーカイブ化を進めます。最後に、温故知新を図るべく、諸先輩方とメンバーとの交流が今まで以上に深まる様双方の窓口となり、企画・運営に取り組んで参ります。

これら「情報」をキーワードに3委員会によって行われる当室の様々な活動を、「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE.」の精神のもとに推進させることにより、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に寄与致します。

2007年度

## 国際情報委員会 事業計画

委員長 佐藤信久

昨今、我国を取巻く国際情勢は日増しに緊迫し、さまざまな外交問題が浮かび上がってきています。その問題を整理・認識した上で、国民一人ひとりが今置かれている立場に危機感を持ち、負の遺産を後世に残さない行動を起こすことが必要です。そのためには、民草のリーダーである我々 J A Y C E E が国家火急の問題について本質を学ぶとともに理解を深め、未来志向で「世界との友情」を実現させなければなりません。

これらを踏まえて当委員会では、北朝鮮による拉致問題やミサイル発射問題、核開発問題、韓国やロシアとの領土問題、中国との間にある領海侵犯問題や歴史問題、あるいはアジア各国の利害関係の対立と協調等我々が知らなければならない昨今の緊迫したアジア情勢について歴史的側面も含め、書籍、雑誌、報道、インターネット等より幅広く情報を集め問題整理をします。また例会、公開委員会ではその時の情勢に応じた国際問題について有識者の見識を伺う場を設け調査、研究を深めていきます。そして、新潟 J C 版コミュニケーションシステムを使ったアンケートによってメンバーに対し意識調査を行い発表します。このような、委員会による調査とアンケート等によりアジア情勢における現状の問題、特に新潟にさらされている脅威を明らかにしていくことでメンバーへ啓蒙を図っていきます。また将来へ向けた新たな姉妹 J C の検討、汝矣島 J C と板橋 J C との相互の交流を通じ「国際的な責任を自覚」し、「世界との友情」という永続的な価値観の基に、更なる友情を育むとともに、民間外交の実践により本来の国際交流の価値を見出していきます。

これらの委員会で行う活動により、我々新潟 J C メンバーが今置かれているアジア情勢の脅威について正しく認識し、更に姉妹 J C とのより一層の友情、相互理解及び良好な関係を維持、発展させることで愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造を目指します。

### 〔事業計画〕

1. アジア情勢研究
2. 公開委員会の企画・運営
3. 大韓民国ソウル汝矣島青年会議所・中華民国板橋国際青年商會との交流
4. 今後の姉妹 J C の検討
5. 11月例会の企画・運営

2007年度

## 情報支援委員会 事業計画

委員長 五十嵐 義朗

我々の得る様々な情報には必ず発信者の意図があります。マニフェスト型選挙が進み、その政策を自ら考え判断できる成熟した市民となることが求められている昨今において、情報とその意図に対し無防備では真の国民主権社会の実現とは成りえません。この実現のためには我々 J A Y C E E がメディアリテラシーを身に付け、率先して情報の受発信を行っていくことが必要です。

以上を踏まえ当委員会では、3月例会においてマスメディアによって歪められている情報の現状を有識者から学び、情報を見極める力を身に付けます。LOM活動の情報支援においてはまず杉の子の存在意義を見直し、年間を通しコンセプトを持った内容を企画します。発信方法はメール、ホームページを活用しながら紙媒体によって一人でも多くの人に見て頂けるよう努めます。メーリングリストはフォーマットの統一を図ると共にユーザビリティを重視したホームページと連携して運営します。更に本年度は幅広い意見を収集するための新しい試みとして、オンラインによってアンケートを行う“新潟JC版コミュニケーションシステム”を導入し、委員会活動の支援と同時に対外的な情報収集にも活用して参ります。そして12月にはLOMアルバムを冊子として作成し、1年間の活動をまとめ上げます。我々の活動やその根底となる信念について、受け手にとっても有益な情報として発信出来るよう、「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE.」のスローガンの基に活動致します。

これらの委員会活動を通して、情報についての見識を高めると同時に見極める力を養い、情報という側面からメンバーを支援することによって、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造に貢献できるよう努めて参ります。

### 〔事業計画〕

1. ホームページの企画・運営
2. メールマガジンやメーリングリストによる情報発信
3. 杉の子の編集・発行
4. 新潟JC版コミュニケーションシステムの企画・運営
5. LOMアルバムの作成
6. 3月例会の企画・運営

2007年度

## アーカイブ委員会 事業計画

委員長 肥田野 正明

新潟JCは創立以来半世紀に渡り「明るい豊かな社会」の実現に向って様々な運動を展開して参りました。この経験は今後の事業を遂行する上で参考となる貴重な財産です。しかしその情報のほとんどが整備されていない為、現在の活動に十分に活かされていないのが現状です。我々はこの有益な財産を次代に明確に伝える為にアーカイブ化が必要であると考えます。また諸先輩方と交流をもち温故知新を図っていかねばなりません。

当委員会では、これまで新潟JCが蓄えてきた様々なデータや現在進行形の事業などを整備・共有化する為の電子書庫を設け、「伝えられる」「活かせる」「使える」という3つのキーワードを基に情報の存在を明らかにするとともに、ホームページから引き出すことを可能とした「新潟JCデジタルアーカイブシステム」の構築を致します。新潟JCシニアクラブメンバーとの交流事業においては更なる信頼関係を築く為、今まで以上にシニア、現役の双方が参加し易いよう企画し、諸先輩方が築き上げてきた経験に数多くの現役メンバーから触れてもらい、今後の青年会議所運動に活かしていける場となるよう運営して参ります。そして、本年度のスタートにあたる1月例会・新年会においては、2007年度新潟JCの羅針盤となる基本方針、新体制及び事業活動を来賓・来訪JC・新潟JCシニアクラブメンバーに認知して頂き、現役メンバーには新体制のベクトルを再確認することを目的とした設営を致します。また出席者同士の交流・親睦を深めるとともに、今年一年の事業活動が成功へと向かう期待感のうかがえる演出に努めて参ります。

以上の活動を通じて、諸先輩方と築き上げる深い信頼関係と新潟JCの財産である経験を次代に有用できる仕組みは未来への糧となり、愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」の創造の一助となります。

### 〔事業計画〕

1. デジタルアーカイブの構築
2. 花見の会・月見の会の企画・運営
3. シニア現役合同ゴルフコンペ企画・運営
4. わんぱく相撲への参画
5. 1月例会（新年会）の企画・運営

# 2007年度

## 財政特別委員会 事業計画

委員長 坪谷寛行

社団法人とは、一定の目的のもとに結合した人の集合体であり、それぞれの構成員とは別個の社会的存在として意思を持ち、団体の名において行動する法人です。また、「定款」に基づき運営され、構成員は不特定多数の利益を行為によって還元することが求められます。新潟JCも社団法人として、このような趣旨に沿った形での活動が必要であり、そのための活動資金が有用・有効であると共に適正活用されなければなりません。

本年度、当委員会ではこのような定義を基礎とし、メンバーから集められた貴重な会費によって運営される各種事業について、その目的が達成されるよう支援してまいります。具体的には、事業における収支予算書について内容と予算の整合性の確認、また事業実施後の決算が適正に会計処理なされているかを慎重且つ公正な視点で協議を行います。最近、頻発している企業の不祥事などで、コンプライアンス（法令遵守）が以前にも増して叫ばれており、それは企業だけでなく各種団体でも同様に求められています。法律や倫理を遵守することの重要性を認識し、各種事業がコンプライアンスに基づいて進められるよう協議・審査を行います。上記内容の理解を深めていただくために、会計セミナーを実施いたします。また、平成15年6月に閣議決定された「公益法人制度の抜本的改革に関する基本方針」について、それらが今後、我々新潟JCに対してどのような影響を及ぼし、どのような対応を迫られ、どのような方向性で進めていく必要があるのかを調査・研究いたします。

1年間を通して、会計処理・コンプライアンスに対するメンバーの意識と知識の向上を図り、各種事業・予算執行が適正に遂行されるよう共に活動をすることで、LOMが愛と信頼に溢れる誇り高き新潟の創造に向って寄与することを目指します。

### 〔事業計画〕

1. 各種事業の予算並びに決算審議
2. LOMメンバー全体対象の懇親会事業の予算・決算確認
3. 各種コンプライアンスの審査
4. 公益社団法人改革の研究と対応
5. LOM会計セミナー

2007年度

## 総務委員会 事業計画

委員長 吉原 幹治

公益社団法人とは「不特定多数の利益の為に活動を行う団体」を指します。現在社団法人をとりまく環境は変化しており、活動には厳しい目が注がれています。JCは公益社団法人として、地域のリーダーとして市民の付託と信頼にこたえるよう事業を展開しなければなりません。その為にはメンバー一人ひとりの活動意識を向上させ、各事業においては目的に沿って適正かつ円滑に活動が行われる連絡調整役が必要であります。

総務委員会としては、最大限効果的に事業が行われるようサポートを行います。LOMの意思決定機関となる総会・理事会・正副理事長会議の設営においては、上程フロー変更に伴い議案数の増加が予想されるため、公正かつ迅速な決議が行われるよう期日厳守で正確な準備をし、効率的な運営をいたします。各種大会では、事前に大会でのセミナーの内容やその開催地の情報などを盛り込んだ「新潟JC版ガイド」を作成・配布し、一人でも多くの参加メンバーのセミナーに対する参加意識を醸成します。各種大会LOMナイトの設営では、精一杯の心づくしを持って、参加したメンバーに「大会に参加してよかった」と感じてもらえる場を提供します。シニアクラブメンバーに対しては、窓口の役割を担います。また併せて各種渉外の窓口も担います。7月例会・納涼会では新潟JC一人ひとりの前半の活動を慰労し後半も同様以上の活動をできるよう鋭気を養う会として企画・運営を行います。これら事業活動全てにおいて委員会としては、個人主義でもなく全体主義でもないバランスのとれた有機体として組織だって活動する事を目標に邁進いたします。

このような一年間の事業により、メンバーの活動意識が向上し、組織が公益法人として適正な活動を行うことで、市民の付託と信頼に応える新潟JC、すなわち愛と信頼に溢れる誇り高き「新潟」を担う組織となるのです。

### 〔事業計画〕

1. 総会・理事会・正副理事長会議の運営
2. 各種大会窓口・LOMナイトの企画・運営
3. 新潟JCシニアクラブメンバーの窓口
4. 各種渉外窓口
5. 7月例会・納涼会の企画・運営